

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19109001	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	包括的トランスクリプトーム解析による新たなゲノム医学、創薬研究	研究代表者 (所属・職)	辻本 豪三（京都大学・大学院薬学研究科・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A
	B
	C
<p>(意見等)</p> <p>ncRNAの研究は、基礎研究、臨床応用の研究ともに今後の大きな発展が期待できる領域である。本領域での解析用チップの作製、予測システムの開発など、期待どおりの成果が挙げられている。特に、臨床サンプルを用いてウェット、ドライ研究の両面からアプローチしている点は大いに評価できる。</p> <p>一方で、疾患・治療関連においては、癌に関しての研究は始まっているが、当初の計画にあった疾患動物モデルに関しては手が付けられていないようである。今後の疾患動物モデルの研究の位置づけに関して、研究代表者の姿勢を明確にすべきである。</p> <p>本研究は、今後、新規分子診断法（バイオマーカー）の確立や、核酸医薬品の開発につながることを期待し、高い評価とした。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A/F	<p>包括的トランスクリプトーム解析による疾患・治療関連のcRNA/ncRNA群の抽出、ネットワーク解析に基づく機能予測や生物機能学的効果の同定を目的としているが、本RNAの包括的トランスクリプトーム解析チップを作製し、従来のチップの約100倍の高感度化に成功している。そのチップの有効性についても、食道がん細胞を用いて解析し、miRNAバイオマーカー候補を同定し、これらの分子の生物学的機能を解明している。</p> <p>独創的かつ重要な成果であり、今後益々の社会的周知と還元を期待する。</p> <p>特記事項：上記の学術的な評価とは別に、本研究課題において研究代表者による研究費の不正使用が行われていたことが明らかになった。本研究課題において、研究代表者自らによる研究費の不正使用が行われたことは、誠に遺憾である。不正使用を行った研究代表者の応募資格を一定期間停止したが、研究代表者は猛省し、今後、このようなことが絶対に生じないよう、姿勢を正していただきたい。</p>